

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号

15

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>【目標】校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。</p> <p>【方針】キャリア教育を積極的に推進し、逞しく生きる力を身に付けるとともに、本県の産業に貢献できる人材の育成を図る。</p>	
2 評価する領域・分野	◇ 教育課程・学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・学習指導、教職員の取組に対して、生徒、保護者の両者から良好な評価を得ることができた。「テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」に生徒の83%が回答。「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」に保護者の83%が回答。これらのことは、教務部の重点目標である「創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす」取り組みの成果と考えられる。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の力を育む。</p> <p>◇学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p>◇課題発見とその解決に向けた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業方法についての研究を進める。</p> <p>◇パフォーマンス評価における「ルーブリック」についての理解を深めると共に、学習評価と学習指導のあり方についての研究を進める。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部と他分掌及び教科、学科との連携を密に取り、研修会、教科研究会等を推進する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業研究月間における授業研究の推進 (2) 教科、学科での授業改善に向けた研究会	(1) 研究会、研究授業を生かした授業改善 (2) アクティブ・ラーニングの指導法の研究	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>・観点別評価規準を設定した授業の実施</p> <p>・課題の発見、解決に向けて主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の実施</p> <p>・専門教育の充実をさらに図り、科学的素養を養うことを主眼においた授業の展開</p>	<p>①授業のねらいに迫る指導と評価の一貫性を大切にした授業が展開できたか。</p> <p>②生徒の発言や発表等の場を充実した授業が展開できたか。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度が養成できたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
11 成果課題	<p>○課題の発見・解決に向けて主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業を積極的に推進したことにより、学習意欲の向上と主体的に学習に取り組む態度の養成をすることができた。</p> <p>○専門教育やSPH及びFSH推進事業による各種取組を通して、知識・技能の習得とともに思考・判断・表現力の育成にも大きな成果が上がっている。</p> <p>▲次期、学習指導要領改訂(2022年度)に向けて、教育課程の検討を推進する。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>・アクティブ・ラーニングの視点から不断の授業改善を継続的に推進していく必要がある。</p> <p>・学習指導要領改訂に向けて、生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指し、求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携することで「社会に開かれた、社会に適応した」教育課程の検討を推進していく必要がある。</p>		

総合評価

(A) B C D

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月17日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>1 本人の希望と適性を見極めて、学習指導を行う必要がある。</p> <p>2 アクティブラーニングで具体的にどのような学力がついたのか、評価方法を確立し、成果や課題が分かるようにしたい。</p> <p>3 授業のICT化に伴い、タブレット授業への移行が進みつつあるが、生徒にとってより分かりやすい授業が実践されるとよい。</p> <p>4 生徒ひとりひとりの自主性や可能性が発揮できる教職員の指導支援で、良い成果が生まれている。学習指導に対する生徒の意見と真摯に向き合って、信頼関係を築いてほしい。</p> <p>5 ITを積極的に取り入れようとしている点が良い。教育目標や指導目標の理解度が低いが、社会人でも生徒でも「岐農三訓」は大切なので、これをしっかりと定着させたい。</p>

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号

15

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心と自立して生きる力」を育て、進路実現を図る。
----------	--

2 評価する領域・分野	◇ 進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の9割弱が進路情報の提供、将来の希望に沿った具体的な進路指導について概ね満足しているが、情報提供への要望は強い。 保護者の9割が進路説明会の内容、進路情報の提供、生徒への進路希望に沿った適切なアドバイスについて概ね満足している。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇キャリア教育の観点に立ち、自己の在り方生き方を考えさせながら主体的に進路を選択できる能力や態度を育成するとともに、SPH、FSHを活用した専門教育を通して、将来のスペシャリストの育成、岐阜県の産業を担う人材の育成、人間性豊かな職業人の育成を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・系統的、体系的に進路意識を高めることができるよう、各分掌、学年学科、教科と連携を密にした校内体制をとる。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) キャリア形成を意識した系統的、体系的なガイダンス及びLHRの実施	(1) 学年進行とともに進路希望の具体化の程度、および希望する進路先への決定割合	
(2) 学年、学科と連携した進路相談・指導の充実適切な情報提供	(2) 生徒・保護者等を対象とするアンケートによる評価の状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の進路目標に応じたガイダンス等の実施 ・1年生：幅広く職業を理解し、上級学年での取り組みを見通すためのガイダンスを実施する。 ・2年生：職種別、進学分野別説明会を実施し進路選択に必要な情報を収集させ、3年生へ向けた姿勢を作らせる。 ・3年生：校種別進学説明会、就職・公務員説明会を実施、進路決定に向けた具体的な対策に取り組ませる。 ・進路希望に応じた進学補習、公務員補習、小論文指導、面接指導を実施する。 ・3学年において生徒の進路希望に応じた指導やサポート体制を充実させる。 ・保護者には育友会総会、学年進路ガイダンス、三者懇談会等の機会に具体的な進路情報を提供するとともに、相談に随時応じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学年進行とともに進路目標を明確化し、進路未定者が減少しているか。 ② 3年進級時には全員が進路希望を具体化しているか。 ③ 進学、就職ともに概ね希望の進路先に合格できたか。(アンケートの満足度は高いか) 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>

11 成果・課題	<p>○生徒・保護者は、進路情報の提供、進路指導について概ね満足をしているが生徒はより充実した情報を求めている。1、2年生の進路ガイダンスを増やし情報提供できた。</p> <p>△民間企業希望者の第1希望内定61名/66名であったが、2次募集多く優良企業の内定を得られた。公務員合格者数はほぼ現状維持(12名内定/30名)。</p> <p>△7割の生徒が進学を希望。私大農学系を除けば概ね第1希望で合格。</p> <p>▲国立大学合格者9名(2名受験待ち)。私大農学系難化。合格できる学力と姿勢を身に付けさせる指導、岐阜大学に希望が集中する課題。</p> <p>▲志高く、より高い目標に取り組む姿勢を育てる必要性。そのために、各分掌との連携、指導ノウハウの共有を図り、1年次から継続して努力する姿勢、主体的に進路選択をしていく能力と態度を育む必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>①より高い進路目標実現への意識向上を図るため、学年会との連携を密にし、LHRや学年集会での進路指導、進路情報提供をより充実させる。</p> <p>②新入試制度への具体的対応(基礎学力向上、思考力・判断力・表現力の育成)として学習教材や学習機会の提供を充実させるとともに、教員間の指導ノウハウの共有を図る。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月17日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>1 本人の希望に対して適性を見極めた指導に、引き続き留意してほしい。</p> <p>2 志を高く持ち、目標に向かって努力する生徒を育ててほしい。新しい大学入試制度への対応は喫緊の課題なので、全校体制で取り組んでほしい。</p> <p>3 就職に関しては採用増と好ましい結果となっているが、進学や就職活動に関しての生徒の不安を取り除くために、教職員からの早期アドバイスが重要である。</p> <p>4 生徒の進路目標に対して、適切な情報提供や学年ごとの明確なサポート・助言により、成果が表れてくる。</p> <p>5 進学した生徒が、普通科高校に比べて履修時間数の少ない英語・数学でつまづかないよう配慮していく必要がある。</p>	
--	--

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校 学校番号 15

1 学校教育目標	<p>校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。</p> <p>このために、基本的な生活習慣においては、「岐農三訓」を徹底し、岐農生としての自覚と誇りを持たせる。</p>
----------	---

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導・教育相談
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、朝読書、掃除等真剣に取り組めていない生徒が散見される。 ・人間関係の崩れから不安感が強い生徒が2年生女子に多い。 ・盗難の件数が増加(教科書・文房具・携帯電話など)しているが、生徒の規範意識の低下と共に、教室やその他の活動場所が汚い、臭い、整理整頓が行き届いてないことにも起因しているようだ。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標の観点に立ち、岐農三訓「時を守り 場を清め 礼を正す」の徹底を図る。 (1) 基本的な生活習慣(身だしなみ、授業態度、整理整頓、遅刻、礼節等)向上の指導徹底。 (2) 生徒の安全と命を守る教育の推進を図る。 (3) 教育相談機能の充実を図る。
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部及び職員間の共通認識を図る。 ・生徒情報の共有化を図る。

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) イローカード、マーカー、遅刻指導の継続 (2) 登校指導や交通安全の啓発運動の実施 (3) 迷惑調査結果の迅速かつ真摯な対応、 教育相談週間の実施（年3回、時間確保）	(1) 身だしなみの客観的評価、外部からの評価、 遅刻者数の増減。 (2) 交通事故発生数の増減。地域からの評価。 (3) 不登校や問題を抱える生徒の適切な対応。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・定期的な点検指導。教頭の遅刻指導継続中。 ・登校指導、自転車点検、ハザードマップ作成。 ・教員間の連携、情報共有。教育相談機能の充実	①身だしなみは整っているか。 遅刻者数はどうか。 ②交通マナーはどうか。交通事故発生 件数はどうか。 ③不登校生徒の対応は十分か。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・ 課題	△基本的生活習慣（身だしなみ、授業態度、整理整頓、遅刻、礼節等）については、一定の節度は保たれている。しかし、大きく崩れているわけではないが規範意識は高いとはいえない。教師の指導に対しては、素直に従う生徒が多いが、教師が目を離したり、手を緩めると崩れていく傾向がうかがえる。 △交通事故報告数については、例年並み（R元年15件、H30年14件、H29年16件）である。MSリーダーズが交通安全啓発に対して活発に活動し、全校集会等の機会を利用して注意喚起を続けたが、なかなか減少していかない現状である。近隣校も同様の状況で、この地域特有の交通事情が背景にあると推測される。本校単独の取り組みや現行のMSリーダーズの取り組みだけではなく、警察を含めた地域ぐるみの組織的できめ細かな取り組みが必要である。 ○情報モラルは、今年も力を注いだ。講習会や配布されたリーフレットを通し、生徒のモラルは向上したと思われる。SNS上で生徒同士の行きすぎたやりとりには、生徒が気づき大事に至る前に生徒同士で解決を図る姿も見られた。 ○教育相談は様々な生徒に対応することができた。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・定期的に行っている身だしなみ点検は生徒指導部主導に切り替える。 ・校則変更は生徒会などの意見を取り入れながら、適宜対応していく。 ・来年度に向けた生徒指導の指針や改善点を、早い段階で生徒及び教職員に明示し（2月中）、来年度4月のスタートをスムーズに行い実りある一年間に繋げていきたい。 ・教育相談課と担任との関係をより密に活動していく。生徒からのいじめの訴えに担任がより適切な対応ができるように支援していく。今年度同様「いじめの早期発見・早期対応」を来年度も組織的に取り組みたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月17日（金）

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 転学者・休学者・卒業生へのフォローにも配慮してほしい。 2 生徒の生活態度は概ね良好であるが、よりしっかりと生徒を育ててほしい。校舎が工事中ということもあるが、廊下や階段等の汚れが気になった。 3 学年により生徒の意識が異なり大変であるが、交通事故を含め早期対応が望まれる。 4 学校生活には生活習慣の持続が必須であり、規律意識の向上に教職員一同が全力で取り組んでいる。 5 やり抜く力が不足しているようであり、達成感を体感させながらこれを養ってほしい。
--

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号

15

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（岐農祭、体育祭、球技大会など）が充実して行われていると答える生徒や保護者が多く、特に保護者においては、生徒がその取組みを通して成長できていると感じている。 ・部活動についても、保護者の「活発に行われている」と感じている割合が9割を占め、学校生活の大きな柱である部活動に有効性や期待を持っていることがうかがえる。 ・LHR活動や生徒会活動については、2～3割の生徒が物足りなさを感じているおり、活動の意義を感じられない状況もみえる。種々のボランティア活動についても本校での取組みが認識されておらず、その内容や参加方法について知らせてほしいとの声がみられる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇豊かな心と自立して生きる力を育てるため、生徒会活動などの特別活動の活性化と充実を図り、感動と達成感のある教育を推進して、社会性と指導性を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・特活指導部と他分掌、各学科、学年会をはじめ、全職員の共通認識のもと校内体制を整え、連携を図って諸活動に取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒会活動の充実 (2) 部活動の活性化と充実 (3) 学校目標達成に向けたホームルーム活動 (4) 地域と連携したボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校行事の計画及び実施における関係者の連絡徹底と協力連携、及び実施後の点検 (2) 県大会以上の入賞数や全国大会出場などの大会結果と日常の活動状況の把握 (3) 委員会活動やホームルーム活動の把握 (4) ボランティア参加人数と活動実態の把握 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> (1) 執行委員による定例会の開催。生徒会行事の早期計画と綿密な準備、円滑な運営。 (2) 部顧問とHR担任、及び部活動係との相互連絡。必要備品の整備。 (3) 各HR委員の自主的なホームルーム活動の実施。各分掌との連携。 (4) 自治体などが主催する地域活動への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 定例会議を開き、早期に企画ができたか。 (2) 生徒の活動状況が把握できたか。備品の整備ができたか。 (3) LHRの充実が図れたか。 (4) 多くの生徒が参加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) (A) B C D (2) A (B) C D (3) A B (C) D (4) A (B) C D
11 成果・課題	<p>○生徒会執行部が自主的、積極的に球技大会、体育祭、岐農祭準備などの運営に関わることができた。（各行事の準備期間や当日、行事後のまとめ期間）</p> <p>○部活動では運動系と文化系の多方面での生徒の表彰があり、また学校での学習成果としても様々な表彰を受けた。</p> <p>▲LHRの時間は担任の裁量によるところが大きく、クラスによりその時間の充実度が違っている。県教委から発行されている「青春を探求しよう」などを有効に活用し、どの生徒にとっても有意義な時間になるよう係として支援体制を考えたい。</p> <p>▲岐農祭が台風の影響で開催できなかったが、行事全般についての反省を少しでも次年度への改善につなげていきたい。</p> <p>○生徒の部活動カードを一括管理したことで、活動状況把握ができた。</p>	
		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>

12 来年度に向けての改善方策案

- ・学校行事の在り方については、生徒にとっての最善を考え検討する。また分掌・学科・学年との共通理解を図りながら、円滑な運営に努める。
- ・生徒会活動や部活動をより充実させ、学校生活を有意義なものにしていくための方策を練る。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月17日（金）

【意見・要望・評価等】

- 1 学校行事の充実が、地域の人やこれから受験を考えている中学生へのアピールになりとてもよい。
- 2 学校行事に対する生徒のとらえ方は様々であるが、「高校時代しかできない」という意識付けをしてほしい。
- 3 部活動は当校の大きな柱であるが、働き方改革などいろいろな制約がある。工夫・改善しながら頑張ってもらいたい。
- 4 高校生活3年間という短い期間であるが、先生・地域の方々等いろいろな関わりを持つことが大切なので、引き続き有意義な取組を期待している。
- 5 学校行事や部活動に対して意識高揚を図り、活発な活躍や学習成果が生まれている。ボランティア活動の提供をより多く図ってほしい。
- 6 今年度は、気候要因から岐農祭が短縮となり残念であった。来年度以降も気候的な面で判断が難しい面があるが、安全と生徒の活躍の場が実現できるよう頑張ってもらいたい。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号

15

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。 この実現のために、岐農三訓「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを徹底する。
----------	--

2 評価する領域・分野	◇ 健康管理・安全管理	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者の9割弱が安全・衛生面での配慮がなされていると評価している。 ・3割弱の生徒が「掃除が行き届いており校内がきれいである」の項目にC評価をつけている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒ひとりひとりが健康と安全に関する自己管理能力を培う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室を中心とした健康と安全に関心を持たせる指導。 ・命を守るための訓練の実施と様々な災害を想定した防災意識の向上。 ・全職員による清掃活動の指導徹底 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 保健室を中心とした保健衛生活動と保健委員による点検活動 (2) 安全点検、命を守る訓練、防災情報整備 (3) 全職員による清掃指導と美化委員による点検 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 環境衛生日常点検結果と保健室来室記録・災害報告書による状況把握 (2) 点検結果と行動観察 (3) 係生徒による点検結果 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価

<ul style="list-style-type: none"> ・活発な保健室活動、廊下掲示物の整備、保健委員によるLHR活動 ・安全点検による環境の整備、命を守る訓練の実施 ・毎日（昼休み後）の生徒全員による清掃活動 	<ul style="list-style-type: none"> ① 各自の健康に関心を持つことができたか ② 各自が安全に気がつけたか ③ 身の回りの清掃に気を配ったか 	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
<p>11 成 果 ・ 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○健康・保健・安全指導が徹底され、生徒自身が健康維持に努める行動（手洗いマスク着用など）が見られた。 ○保健委員による点検活動やLHR活動など、生徒が積極的に取り組めた。 ○「命を守る訓練」は、災害時の職員と生徒の初期行動が定着しつつある。 ▲毎日の全員掃除において、今一度指導の徹底を図る必要がある。また、掃除道具などの点検、整備、補充をしっかりとしたい。 	<p>総 合 評 価</p> <p>A B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康管理においてはなお一層の働きかけを行う。 ・防災意識をさらに高めるため、「命を守る訓練」をより実効性のある内容にしていく必要がある。 ・職員、生徒の美化意識の向上を目指すために、清掃指導の徹底、掃除道具を充実させる。 ・翌日に、清掃が行き届いたきれいな教室でSHRを行えるようにしたい。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月17日（金）

<ol style="list-style-type: none"> 1 「岐農三訓」は素晴らしいものなので、一層の周知徹底を図ってほしい。 2 実験実習、部活動、通学等安全面で留意すべき事項が多い。安全管理マニュアルの充実と徹底を図ってほしい。 3 自己管理を実践していくということは、社会に出た後も重要になってくるので、生徒達に浸透させてほしい。 4 安全な学校生活を過ごすサポート・支援が充実し成果が生まれている。心の不安要素があれば早く解消できるように、適切な指導・支援を期待している。 5 「ブローケンウインドウの法則」があり、汚くしていると汚くなるが、きれいにしていると汚しにくくなるので、整理・整頓・清掃を一層大切にしてほしい。
--